

(白川村)

令和元年度事例

【地域の概要】

白川村は岐阜県の西北部に位置し、西は白山連峰、東は飛騨高地の急峻な山々に囲まれ、中央を庄川が流れています。この庄川沿いの僅かな河岸段丘に大小16の集落が点在し、村域は、東西16.9km、南北30.6km、総面積356.64km²となっており、その96%が山林で、農地は僅か0.4%(149ha)という山村で、本州有数の豪雪地帯です。本村は、この美しく厳しい自然により合掌造りの伝統的建築物群が形成、保全されており、平成7年には世界文化遺産に指定され、年間約160万人の観光客が訪れています。

農業の中心となる稲作では、食味向上と地産地消を進め、白川郷コシヒカリをブランド化する「白川郷美味しいお米プロジェクト」に取り組んでおり、ソバ、大麦の栽培、菌床キクラゲ栽培、農家自身に取り組む六次産業化、大規模養豚飼養施設の誘致によるブランド豚の育成などを行っています。

取組開始前の状況や課題

- 傾斜地の狭小な農地が多く、鳥獣被害もあり、コストの高い農業となっている。
- 農協の集荷施設まで距離が遠く、豪雪地帯のため、ハウス栽培によるトマト農家などは村内にいない状況。
- 中間管理機構への貸し出し希望農地でも担い手が着かない農地も多い。

取組内容

- 令和元年11月に農振地域の農地所有者305世帯（筆数1,843筆・総面積115ha）を対象に、村内の所有者は区長（自治会長）文書発送にあわせて、村外の所有者には郵送により農地利用意向アンケートの配布を行った。
- アンケートの回収については、12月末を期限に、村内は区長・各組長により回収、村外は返信用封筒により回収した。
- 回収率は75.2%で現在アンケートの集計・入力作業を終了し、アンケート結果を可視化した地図等の作成に取り掛かっている。

今後の展開と方向性

- アンケート結果や聞き取りの結果を地図化し、地域での話し合いや意見交換、農地貸借のマッチングを行う。
- 担い手を集め、現状より集積・集約が進むように、結果の可視化された地図をもとに検討を行う。
- 現在の担い手は個人であり、高齢化、後継者不足が心配されているので、行政や農協の支援を含めた担い手の組織化、農業公社を設立し、一村一法人での集積・集約化を検討する。